



福祉人材センター × 介護福祉士会

# ふくし・かいご通信

2022  
5月  
No. 8



北海道福祉人材センター  
HPリンク

発行：社会福祉法人北海道社会福祉協議会  
北海道福祉人材センター ☎011-272-6662

北海道福祉人材センターでは、一般社団法人北海道介護福祉士会の協力を得て、福祉・介護に関する基礎知識や日常に役立つ情報を定期的に発行しています。

## 今月は… 私のかいごストーリー

一般社団法人北海道介護福祉士会 副会長 渡邊 千華子 氏  
(社会福祉法人釧路市社会福祉協議会在宅福祉課)



皆さんは、どんなことがきっかけで福祉の世界に興味を持ちましたか？「親が介護をしていたから・・・」「施設見学で興味がわいて」など、理由はいろいろあるかと思います。私も、この介護のしごとをこんなに長く続けるとは思っていませんでした。でも気づけばこの分野で30年以上。時が過ぎるのは早いものですが、介護のしごとは本当に魅力的なしごとだなと改めて感じる今日この頃です。

### エピソード1 「高齢者との出会い」

私が介護を必要とする高齢者と出会ったのは、小学3年生の冬でした。脳外科病棟の四人部屋へ検査入院した時、隣のベッドには寝たきりのおばあさんがおられました。この頃の病院はまだ介護職がおらず付添婦さんがお世話をしていました。そのおばあさんは、お話こそしませんでした。排泄だけは自ら訴えていました。傍にいる付添婦さんに、「おしっこ」「うんこ」と訴え、そのたびにカーテンを引き、おむつを交換していたのを覚えています。おばあさんは、時間に関係なく排泄を訴えます。元気だった私は、眩くおばあさんの声を聞く度にベッド横に駆け寄り「おばあちゃん、おしっこ？うんこ？」と聞いては、待合室で談話中の付添婦さん呼びに行ったものでした。

検査も終わり、退院する日が近づいてきた時、何か同室のおばさんたちにあげるものはないかと

考え、お花紙で花を作ることになりました。退院の日、部屋の皆さんにその花を渡しなが

ら挨拶をしていくと、排泄の訴えしかできないと思っていた隣のおばあさん

が、涙を流していたのです。言葉少なのおばあさんが涙を流したあの光景

は、今でもしっかりと目に焼きついています。この頃から、何もできない人でも感情はあるんだな・・・と子ども心に感じていた私でした。



## エピソード2 「障がい児・者との出会い」

私は3人姉妹の2番目で小学校5年生になった時、妹は3歳でした。記憶にあるのは、妹が初めてストローで牛乳を飲むことができた日のことです。言葉の発達が遅かった妹を心配した母は、妹を連れて児童相談所へ向かいました。一緒についていった私は母が話を聞いている間、妹と二人、話が終わるのを待ちました。妹は持参のジュースを飲み、私は買ってもらったコーヒー牛乳を飲んでいると、まだストローで飲むことができない妹が私の飲物を見て物欲しそうにしていました。「飲む？」と口にストローを運びましたが、やはり妹は飲むことができません。何とかして飲めないかと思ひ、ストローで牛乳を少し吸い込み、吸い口を手で止め、ストローの中に牛乳が入った状態で妹の口の中に入れ指を離してみました。すると、妹の口の中にコーヒー牛乳が流れ込み、上手に一口を飲むことができて笑顔になりました。そのまま少し続けた後、パックごと手渡してみると妹はストローでスースーと勢いよく飲み始めたのです。嬉しくなった私は、妹の頭をなでながら「上手上手！」と手を叩いて喜びました。



しばらくして、私たちのところへ母が戻ってきました。すぐに妹がストローで飲めたことを伝えると、母は軽く笑みを浮かべるだけで黙ったまま涙を流していました。なぜ泣いているのか、嬉しそうでもない様子。その時の母の姿は今まで見たことのない暗い表情で、私は何もわからないまま家に帰りました。後で聞いた話ですが、妹が初めてストローで飲めるようになったこの日、母は妹に自閉症の疑いがあると初めて知らされた日であったということでした。

その後、妹が自閉症だとわかり、我が家の生活の中へ徐々に福祉の世界が舞い込んできました。妹は、片道1時間半という長い時間をかけてバスに乗り、知的障害児の施設へ通うようになりました。私も行事には一緒に参加し、隣接していた肢体不自由児施設へ通う子どもたちとも一緒に行事を楽しみ、遊具で遊びました。妹と同じ障がいをもつ親子の会でも、多くの障がいをもった子どもたちに出会い、親御さん達の心根を見聞きし感じることができました。障がいを持った子の親御さんが皆さん揃って言う事は「この子よりも一日でいいから長生きしたい」「自分が元気なうちは何とかして守ってあげたい」という切実な思いでした。健常の子どもたちは自宅で生活をするが当たり前なのに、特に重い障がいのある子どもたちは親元から離れ、遠い地方の施設へ入所しなければならない。そんなことも多くありました。幼い頃はわからなかったことが大人になった今たくさん見えてきて、いろいろと考えさせられることばかりです。子どもだったあの頃、妹を通して出会った皆さんと共に時間を共有できたことが、今の私の礎を築き上げてくれたのかもしれない。

## エピソード3 「学生時代の学び」

中高生時代を部活一筋で過ごし、いよいよ進路を決める時期になりました。まずは保母（現在の保育士）資格を取り、養護施設で暮らす子どもたちのために働いてみたいと思うようになった矢先、昭和62年、高校2年生の時に「介護福祉士」という国家資格が生まれ、道内にも介護福祉士の養成校ができました。自分がしたかったのはこれだ！と、すぐに飛びつき、介護福祉士の養成校へ進学することを決めました。

平成元年、札幌の専門学校日本福祉学院（現：日本医療大学）へ進学した私は、同じ目標を持った友人達や先生にも恵まれ、毎日楽しく学校へ通い、そして何物にも代え難い福祉の心を得ることができました。

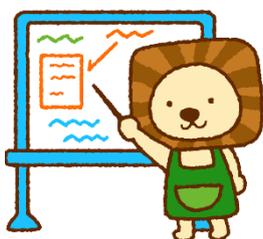


#### エピソード4 「現場で感じたこと ～特別養護老人ホーム～」

卒業後は特別養護老人ホームの寮母として仕事を始めましたが、理想と現実のギャップに悩み、辛いこともありました。しかし、出勤するといつも笑顔で利用者さんが待っていてくれ、その空間はとても心地よく、ケアをしていながらも、自分自身が癒され、励まされ、支えられていたと思います。

現場では、利用者さんからたくさんのことを学びました。機嫌が悪いといつも「ばかやろう！あっちいけ～！」と大声をあげる寝たきりで認知症もあるIさん。なぜかしら、寝起きはいつも機嫌が良く、声をかけると「おはようございます。フッフッフッ・・・」と笑顔で答えてくれました。ある夜勤明けの朝、その日はとても忙しく、機嫌の良いIさんの顔を見た途端ふっと、本音がこぼれました。「もうくたくたぁ・・・。貧乏暇なしだぁ」と言いながらIさんの胸元になだれこむと、Iさんはふっとお母さんのような柔らかい表情になって私の頭をなでながら「貧乏暇なしなんて言うんじゃない。多忙の幸せって言うんだよ」と、教えてくれました。年をとり、寝たきりになっても認知症になっても、人生の先輩はやっぱりすごいなぁ～・・・と、また一つ豊かな生き方を教えてもらえた一言でした。

#### エピソード5 「現場で感じたこと ～介護福祉士の養成校～」



12年間の特別養護老人ホーム現場を経て、次についた就職先は介護福祉士の養成校でした。夢を抱いて入学してくる学生を見ながら、教員というよりは同じ介護福祉の世界で働くことになる同士の卵がたくさんいる・・・そう思うと、嬉しくてたまりませんでした。学校での仕事は、初めての事務作業も多く不慣れなこともありましたが、数多い行事や講義、教員間のチームワークなど全てにおいて介護の現場で学んだスキルが活かされました。学生への配慮は、介護現場での利用者対応に似たところがありました。それもそのはず、対象者は「人」なのですから。結局自分は、人と関わる仕事が好きなのだなぁと改めて思いました。たくさんの先輩や教職員の仲間、そしてなによりも愛おしく頼りになる学生に恵まれ、多くを学んだ15年間でした。



#### エピソード6 「現場で感じたこと ～訪問介護～」

そして今、私にとって新たな分野である訪問介護の仕事で現場復帰となりました。在宅分野に関わるのは初めてですが、「介護の基本は訪問介護の個別ケアにある」と考える自分としては、いつか携わってみたい分野でした。利用者さんの中には、自分の家ではあるものの家族関係が思うようにいかず愚痴をこぼしながら暮らしておられる方、子育てを終え今の一人暮らしが一番幸せという方、なんでもいいからとにかく美味しいものを作ってくれという方・・・本当に一人ひとりのニーズや幸福度は違います。施設や学校では得られなかった何かが、これからの私を成長させてくれるのではないかと期待で胸膨らむ今日この頃です。

#### おわりに

私達にもたくさんの過去があるように、高齢の利用者様は、いろいろな苦労や経験を経て今があります。言葉を発せず訴えができないおばあさんも毎日こどものことを案じ、美味しいご飯を作って、家族の帰りを待っていたかもしれない。10分前のことを覚えてられず、何度も同じ事を聞いてくるおじいさんも、かつては社員を率いて立派に仕事をこなし、家庭を守ってこられたのかもしれない。障がい児・者の方々も、みんな何かしらの不自由さを抱えながら今を懸命に生きています。

私たちが当たり前で過ごしている生活を、高齢だから、障がいがあるからという理由だけで取り上げられることはあってはならないことです。私たちは「その人らしい当たり前の生活」を送ってもら

うために、できることはご自分で、できないところをお手伝いする、そして何より、利用者さんの心に寄り添うことのできる、そんな介護福祉職でありたいと思いながら仕事をしています。

たいしたことではない、手の届かないところを少しでもサポートしただけなのに「ありがとう」と感謝してもらえる介護のしごと……。その温かい言葉は、自分への褒美となり、明日へと向かう活力に繋がります。

介護の仕事は人の人生に携わることのできる、本当に素敵な、そしてとても奥深い仕事です。この世の皆さんが、生きがいや自信をもって、人生の最期の日まで心穏やかに過ごせる日がくることを願っています。

皆さんも是非、一緒に明るい介護の未来を創り上げてみませんか？お待ちしております(\*^-^\*)

## 次回は、「介護のワンポイント」です。



### 一般社団法人北海道介護福祉士会

介護福祉士の職業倫理の向上、介護に関する知識技術・経験を深めて資質向上を図り、北海道の福祉の推進に寄与している団体です。★ 新入会員募集中 ★

TEL&FAX 011-222-5200



北海道介護福祉士会  
HPリンク

## 北海道福祉人材センターからのお知らせ

北海道福祉人材センターでは、6月26日（日）、7月9日（土）、7月10日（日）に

**オンライン福祉職場説明会**を開催します！

詳しくは、ホームページをご覧ください。<https://fukushi-online.jp>

スマホ PCでどこからでも参加OK!  
**オンライン** 福祉職場説明会  
6/26(日) 7/9(土) 7/10(日)



ご不明な点は、お気軽にお問合せください。

発行：北海道福祉人材センター TEL011-272-6662